

2020年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1495200147	事業の開始年月日	平成23年10月1日	
		指定年月日	平成23年10月1日	
法人名	株式会社日本アメニティライフ協会			
事業所名	花物語なかはら			
所在地	(211-0051) 川崎市中原区宮内2-17-36			
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名	
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名	
		宿泊定員	名	
		定員計	18 名	
		ユニット数	2 ユニット	
自己評価作成日	令和2年9月10日	評価結果 市町村受理日	令和3年2月8日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.rakuraku.or.jp/kaigonavi/
----------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「花物語なかはら」は南武線武蔵新城駅より徒歩20分ほどの閑静な住宅街の中にあります。
平成23年10月1日に開設をし、小規模多機能型居宅介護「花織なかはら」を併設しています。
共同生活の中にもご本人の「自分らしさ」を尊重し、楽しく笑顔のある生活を地域単位で提供できるように目指しています。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鵠沼橋1-2-7 藤沢トーセイビル3階		
訪問調査日	令和2年10月23日	評価機関 評価決定日	令和3年1月13日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

事業所はJR線・東急線「武蔵小杉」駅、またはJR線・田園都市線「溝の口」駅よりバスで「西下橋」下車、徒歩4分のところにあります。多摩川沿いの閑静な住宅地に位置し、近隣には等々力緑地公園、野球場、陸上競技場などがあります。鉄骨造り2階建の1・2階が2ユニットのグループホームで小規模多機能型居宅介護事業所を併設しています。隣接地には法人の3階建てに2事業所があります。

<優れている点>

管理者と職員とで作った事業所理念に「笑顔のある穏やかな毎日」3つの目標「①安心・②安全・安楽」を掲げています。その内容は「利用者のニーズに合った介護・看護・医療の提供」「地域、行政と連携して防災・災害に備えた施設づくり」「楽しく笑顔で毎日がすごせるように生活を整える」として、取り組む方法について具体的に列記しています。職員は日々利用者に関わる際のサービス提供の拠り所としています。川崎市の「かわさき健康福寿プロジェクト」に利用者1名が参加し、運動、身体機能向上に取り組み「介護度4」から「介護度2」になり、表彰されました。職員は、利用者が得意な家事参加、口腔体操の掛け声係りの役割、創作活動の支援など、生甲斐を持って笑顔で暮らせるような活動を積極的に取り入れ、居心地の良い環境づくりに努めています。

<工夫点>

排泄の自立支援に取り組み、トイレ誘導の間隔を工夫しています。パットのサイズが大から小に変更され使用枚数を半分に減量する効果となっています。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	花物語なかはら
ユニット名	ユニット1

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/>	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="radio"/>	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	新しい施設理念を職員に意見を聞きながら作成しました。会議や日々の申し送りの中で確認したり、その都度必要な研修を行うなどして、一人ひとりが振り返ったり、初心であったり、方向性を確認しています。	事業所の理念は「笑顔のある穏やかな毎日」①安心（利用者にあった介護・看護・医療の提供）②安全（防災・災害に備えた施設づくり）③安楽（楽しく笑顔で過ごせる生活を整える）です。其々の行動を明記し、日々の業務の拠り所としています。	事業所理念を解り易くするために、短い言葉の目標を作る予定です。職員が実践しやすい具体的な努力目標をすることでサービスの質の向上に繋がる取り組みが期待されます。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	現在はコロナの影響でできていませんが、散歩や買い物先での交流も馴染みの付き合いがあります。町内会にも所属し、運営推進会議への参加も毎回声かけをしています。	町内会に加入しています。例年、秋祭りの神社神輿・山車の休憩所として飲食を提供し地域住民との交流の場となっています。小学4年生の見学やボランティアの受け入れをしています。3月以降はコロナ対応で各種行事、交流は中止しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	現在はコロナの影響で難しいですが、それまではどなたでも施設見学が行えるようにし、地域の小学生が授業の一環で施設見学に来られたり、施設のイベントにも参加していただきました。	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	現在はコロナの影響で運営推進会議の開催ができないため、最近のご様子を書面や電話にて報告しております。	2ヶ月ごとに年6回、隣接4事業所合同で開催し、活動報告や地域行事予定などを共有しています。区担当者より台風の浸水被害・防災の説明、コロナ対応について意見交換を行い、助言を運営に生かしています。3月より会議は中止しています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	運営推進会議の依頼や介護保険についての相談をしています。また、中原区認知症対応型共同生活介護事業者連絡協議会に出席いただく協力関係を築いています。	運営推進会議の報告、介護認定申請代行などで区役所担当者との連携を図っています。市の「かわさき健康福寿プロジェクト」に利用者1名が参加しました。グループホーム連絡協議会に参加し情報交換で得られた内容は事業所の運営に反映しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束に関する研修を行っています。防犯上の理由により、事務所不在の際は玄関の施錠を行っていますが、施錠も身体拘束に当たることを職員は認識しています。	事業所の方針は運営規定に謳っています。「身体拘束防止委員会」は2ヶ月に1回開催しています。「言葉の拘束」の研修では、命令調・行動を否定する不適切な言葉は使わない、危険な行動には何か理由があると考えた声掛け、傾聴する態度で支援するように指導しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	会議等の中で事例検討も含め、研修を行っています。日々の職員とのコミュニケーションの中などでも職員の話の吸い上げ、虐待が起こらないような職場作りを心がけています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	施設内の研修会で取り上げたり、外部の研修にも参加しています。ご本人の現状をよく把握した上で関係者と話をしています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	終末期ケアや、医療行為に関する不安を具体的に説明しています。また転倒のある方には、具体的な事例をあげ、ご家族の希望を十分反映したケアを行っています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	随時意見をお聞きしております。意見・要望に沿えるよう、職員間で話し合いをし運営に反映しています。	家族とは、来訪時や運営推進会議で意向を聞き運営に反映しています。また、電話などで意見や要望を聞き、コミュニケーションを図っています。「便り」の発行、請求書には受診関係や生活の様子を記載したメモを添付し情報の共有に努めています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	職員との日々の会話や面談の中で業務内容やサービスの提供等について意見や提案を検討し随時取り入れています。また運営会議の内容を報告し意見を聞く機会を設けています。	個人面談は年2回実施し、休暇やシフト変更希望は随時対応しています。全体会議で職員の意見、ケアの改善や見直しの提案をうけ運営に反映しています。睡眠・食欲など日常と異なる変化の気づきは記録に残し事故発生のリスク管理に繋げています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	日頃の面談でそれぞれの目標を決めモチベーションを持った仕事をして頂いております。また、就業条件についてもご本人の意向に沿えるように配慮しています。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	入職時研修や定期的な研修を行い、参加が多くできるようにしています。また、積極的に外部研修も参加できるよう周知しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	現在はコロナの影響で行えておりませんが、地域の施設の管理者やボランティアの方と月に1回「喫茶みやうち」という地域イベントを開催しておりました。このイベントを通し、管理者同士の交流や情報交換もしておりました。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	サービス開始前にご家族やご本人に要望・不安などをお聞きし、信頼関係が作り出せるように傾聴し、ご入居後も随時ケアに反映させています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	サービス開始時からご本人やご家族の状態や不安なことの聞き取りを行っておりその都度傾聴し要望に沿えるよう支援しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	ご本人とご家族の物理的精神的環境を考慮しサービスにつなげています。また必要に応じて他事業所への紹介も含めてご家族と相談しています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	ご本人のADLや意欲に沿った方法で完全にはできないが、一緒に行くことで完成し、仕事出来る喜びを分かち合っています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	帰宅願望や物取られがBPSDとして強い場合にはご家族にも協力して頂き、定期的にご家族からご本人に電話をさせていただいております。ご家族と話すことで安心いただいております。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	ご家族やご友人が面会に来られた際は現在のご様子なども職員から伝えるようにしております。	家族や友人の来訪時は居室で湯茶の接待をしてゆっくり過ごせるように努めています。外出や買い物の希望は家族へ連絡し実現できるように支援しています。地域行事への参加、ホームの祭りなどで近隣住民との交流ができるように支援しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	ご利用者同士のトラブルもあるため、会話の間に職員も間に入り、良い関りが築けるよう、支援しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	サービスが終了した方はご家族を通じて、他事業所への情報提供等の支援を行っています。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	アセスメントの際だけでなく、日々の生活の中でご本人の意向を聞いています。いつまでも動けるように、積極的に家事をやりたいという意向も聞かれます。	入浴の個別支援時の対話、居間での何気ない会話のなかから思いや意向の把握に努めています。好きな創作活動、得意な家事参加、口腔体操の掛け声係りなど、生活の活動の中で生甲斐になることを把握し、実践できるように支援しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前や入居後も、利用していた担当ケアマネージャー、及び、ご家族やご本人から情報を得、今まで行ってきたこと（家事や生け花等の趣味）が継続できるよう支援を行っています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	日々のアセスメント以外に、ケアプランの更新時の際にもモニタリングや評価を行っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	ご家族と職員の意見より残存機能の維持を目的に、できる限りご本人の足で歩くことを積極的に行なうといったケアができています。少しでも長く歩くために杖の変更を検討している事例もあります。	ケアプランは居室担当者、計画作成担当者、管理者、看護師が参加する会議を経て作成しています。本人や家族の意見・意向を聞き新たな目標の設定、実行計画などに反映しています。モニタリングは3ヶ月ごと、見直しは6ヶ月ごとです。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個人記録に、入居者の言葉や様子を記録し、どういう思いを抱いているのかをリサーチし、申し送りやカンファにて情報を共有し介護計画の見直しを行っています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	ご本人とご家族の関係性（これまでの生活歴等）を考慮しながら、例えばかかりつけ医の受診の支援やご親族との関係などの調整を図っています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	町内会の会員になっており、回覧板や町内会からの情報を得ております。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	月に2回の定期往診を受けていますが、必要な時は今までのかかりつけ医にみて頂いております。また施設看護師より健康状態を聞き家族へ伝えていきます。	提携内科医の往診は月2回です。かかりつけ医を受診している人は1名で同行は家族対応です。訪問歯科衛生士の診察は週1回です。専門医の受診は原則家族対応です。併設する事業所の看護師は月2回訪問し、投薬、健康管理を担っています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	介護職員は日々の申し送りやケアの中で看護師に相談したり個人記録に記入し情報の共有を行いつつ、受診や看護につなげています。適切な情報が伝達できる様取り組んでいます。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	介護職員または看護職員は退院時に、医師とご家族様のムンテラに同席させて頂いて、正確な情報を把握する様に努めています。ご家族の意向を聞き取り出来るだけ不安を解消できる様にお手伝いをしています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	契約時に重度化やターミナルの確認を行なっています。また、状態の変化に合わせてその都度確認を行ない、必要に応じて往診医との話し合いも行なっています。	契約時に「重度化した場合の対応や終末期の指針」について説明し、同意を得ています。看取り実績があります。提携医、管理者、看護師で「看取り介護計画書」を作成し、家族の同意を得て実施しています。マニュアルを作り、法人看護師が職員研修を担っています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	突発的な急変や事故に備え、研修にて指導育成に努めています。またまわりのフロアの協力体制も作っています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	現在はコロナの影響で避難訓練は行えておりませんが、申し送りや資料で職員に伝達したり、定期的に備蓄品の確認もしております。	火災・避難訓練は年2回、3月1日に実施し、今回は11月に水害を想定して隣接する事業所の3階への避難訓練を予定しています。避難訓練には地域住民の参加はありません。備蓄品は水・食料品など3日分を備えています。在庫管理、発注は法人が一括管理しています。	多摩川が近い事もあり、水害に備えて利用者の避難訓練を計画しています。火災・洪水の避難訓練のお知らせを作成し、近隣住民に配布して参加・協力の啓蒙が期待されます。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	ご本人の生活歴や性格を考慮して、誇りやプライバシーを損ねないよう心がけ、常に尊敬の念をもって接しています。	「プライバシー保護の取組み」のマニュアルを作成し、事業所内研修を行い職員は理解しています。排泄・入浴は羞恥心に配慮しさりげない支援をしています。尊敬の念を持った言葉かけに努めています。個人情報事務所の施錠庫で管理しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	ご本人から購入品の希望があった場合は、カタログを見ながら購入したり、自分で選べるように支援しています。また普段の洋服や飲み物もご本人が選べる様声を掛けながら行っています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	ご本人の意向を優先し、動きたいのかのんびりと過ごしたいのかなどお話を伺い支援をしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	ほとんどの方が自分で衣類を選んでいます。訪問理病美容の利用もあり、おしゃれを楽しむ支援をしています。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	準備や片付けを一緒にして頂いています。また、季節に即した食事を提供し楽しんで頂いています。	食材及び献立は外部委託で週2回配達され調理は職員が行っています。一部の利用者が食事の準備や食器拭きを手伝っています。食前の「ばたから」口腔体操は利用者が声かけし唱和しています。行事食、にぎり寿司の出前など楽しい食事の提供に努めています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	ご本人の状態に合わせたご飯の量を盛付けたり、適切な飲水量が確保できる様に声掛け等支援を行なっています。また、食事量が少ない方にはふりかけをかけたりするなど、どうすれば食べてくださるかを看護師や職員で話し合っています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	口腔ケアの介助が必要な方は声掛けや見守り、必要に応じて介助なども行っております。歯科往診にて口腔ケアの指導も受けて対応をさせて頂いています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	排泄意の確認を行なっています。また、ご本人に合わせたトイレ誘導を行なうことで、パッド類の使用を減らせられるように支援しています。	排泄チェック表でパターンを把握しトイレ誘導をしています。完全自立は数名です。家族の要望を受け、夜間トイレ誘導の間隔を短くしたところ大パットから小パットに変更でき、月4袋だった人が2袋に減って家族から感謝されています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	随時体操を取り入れたり必要な飲水量の確保、おやつ工夫（ヨーグルトや寒天で作ったゼリーなど）にて排便コントロールの支援を行なっています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	一番風呂が良い方や、決まった曜日が良い方など、ご本人のタイミングを尊重しています。また、ゆず湯や菖蒲湯など入浴を楽しむ取り組みもしています。	週2回午前中に入浴を行っています。湯はかけ流しで一人ずつ替えています。入浴拒否をする人には、時間や声掛けの工夫をしたり足浴を行っています。半数はシャワーのみで湯船に浸かる人は少ないです。菖蒲湯やゆず湯で季節感を楽しんでいます。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	ご本人が自由に居室やフロアなどで過ごしています。移動介助が必要な方はご本人に聞いてから休息のお声掛けを行っています。夜間安眠して頂けるように支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	看護師が記載した往診記録の確認、または個人記録に添付してある薬剤情報を確認しながら服薬の支援を行なっています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	台所仕事が好きな方には調理や片づけ、洗濯たたみ等を職員等で行っております。日々の生活の生きがいをもって頂ける様支援しております。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	現在はコロナの影響で外出は控えていただいております。ご利用者から外出の要望があった際は、きちんとご説明し納得いただいております。	政府のコロナ高齢者施設規制のため3月から9月まで面会・外出を控えています。コロナ以前は希望者とコンビニやドラッグストアへの買い物外出、500～600メートル先の郵便局までの散歩や宮内公民館前の桜を見に行く支援をしています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	金銭管理は主に事務所で行っております。必要になった場合、立替制度を取っています。ご希望に応じお金を所持し使える様支援しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	家に帰りたいたいという訴えがあった時や用がある時には、ご家族と電話にてお話ししていただき安心いただいております。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	玄関や廊下に季節の花を飾り、季節感を感じて頂いております。お庭にも季節の花が植えられています。清潔をベースに安心した生活の提供を心がけています。	居間は東南に面し明るく、心地良い温度、湿度、換気の管理を行っています。アイランドキッチンで利用者を見守りながら調理しています。居間の水槽でグッピーを飼い餌やりを楽しんでいます。居間や廊下には、利用者の作品や季節の花を飾っています。1階の庭で野菜の栽培を楽しんでいます。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	1.2階のご入居様様が互いに気が合うところへ行き気分転換を図っています。ご入居様方々が自由に居室やフロアへの移動を行っています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	家で使っていた家具や食器を居室においてなるべく、自宅に近い感覚で過ごして頂けるよう配慮をしています。自分の塗り絵の作品を壁にきれいに貼られている方もいます。	家で使い慣れた家具や写真、位牌などを持込み居心地の良い配置となるように、安心感が持てるように支援しています。温度や湿度を快適に保たれています。居室の掃除は利用者と職員が共同で行い清潔で心地良く過ごせるように配慮しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	ご本人の希望や、それぞれの能力に応じて掃除や食事の後片付けなどをして頂いています。個別性を重視し、その方の力量に合わせた支援を行なっています。		

事業所名	花物語なかはら
ユニット名	ユニット2

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	新しい施設理念を職員に意見を聞きながら作成しました。会議や日々の申し送りの中で確認したり、その都度必要な研修を行うなどして、一人ひとりが振り返ったり、初心であったり、方向性を確認しています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	現在はコロナの影響でできていませんが、散歩や買い物先での交流も馴染みの付き合いがあります。町内会にも所属し、運営推進会議への参加も毎回声かけをしています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	現在はコロナの影響で難しいですが、それまではどなたでも施設見学が行えるようにし、地域の小学生が授業の一環で施設見学に来られたり、施設のイベントにも参加していただきました。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	現在はコロナの影響で運営推進会議の開催ができないため、最近のご様子を書面や電話にて報告しております。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	運営推進会議の依頼や介護保険についての相談をしています。また、中原区認知症対応型共同生活介護事業者連絡協議会に出席いただくなど協力関係を築いています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束に関する研修を行っています。防犯上の理由により、事務所不在の際は玄関の施錠を行っていますが、施錠も身体拘束に当たることを職員は認識しています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	会議等の中で事例検討も含め、研修を行っています。日々の職員とのコミュニケーションの中などでも職員の話を取り上げ、虐待が起こらないような職場作りを心がけています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	施設内の研修会で取り上げたり、外部の研修にも参加しています。ご本人の現状をよく把握した上で関係者と話をしています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	終末期ケアや、医療行為に関する不安を具体的に説明しています。また転倒のある方には、具体的な事例をあげ、ご家族の希望を十分反映したケアを行います。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	随時意見をお聞きしております。意見・要望に沿えるよう、職員間で話し合いをし運営に反映しています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎月の職員会議で、業務内容やサービスの提供等について意見や提案を検討し随時取り入れています。また運営会議の内容を報告し意見を聞く機会を設けています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	日頃の面談でそれぞれの目標を決めモチベーションを持った仕事をして頂いております。また、就業条件についてもご本人の意向に沿えるように配慮しています。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	入職時研修や定期的な研修を行い、参加が多くできるようにしています。また、積極的に外部研修も参加できるよう周知しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	現在はコロナの影響で行えておりませんが、地域の施設の管理者やボランティアの方と月に1回「喫茶みやうち」という地域イベントを開催しております。このイベントを通し、管理者同士の交流や情報交換もしております。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	サービス開始前にご家族やご本人に要望・不安などをお聞きし、信頼関係が作り出せるように傾聴し、ご入居後も随時ケアに反映させています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	サービス開始時からご本人やご家族の状態や不安なことの聞き取りを行っておりその都度傾聴し要望に沿えるよう支援しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	ご本人とご家族の物理的精神的環境を考慮しサービスにつなげています。また必要に応じて他事業所への紹介も含めてご家族と相談しています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	ご本人のADLや意欲に沿った方法で完全にはできないが、一緒に行うことで完成し、仕事ができる喜びを分かち合っています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	帰宅願望や物取られがBPSDとして強い場合にはご家族にも協力して頂き、定期的にご家族からご本人に電話をさせていただいております。ご家族と話すことで安心いただいております。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	現在コロナ対策で面会は少人数かつ短時間で行っていただくようお願いしております。ご家族やご友人が面会に来られた際は現在のご様子なども職員から伝えるようにしております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	ご利用者同士のトラブルもあるため、会話の間に職員も間に入り、良い関りが築けるよう、支援しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	サービスが終了した方はご家族を通じて、他事業所への情報提供等の支援を行なっています。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	アセスメントの際だけでなく、日々の生活の中でご本人の意向を聞いています。いつまでも動けるように、積極的に家事をやりたいという意向も聞かれます。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前や入居後も、利用していた担当ケアマネージャー、及び、ご家族やご本人から情報を得、今まで行ってきたこと（家事や生け花等の趣味）が継続できるよう支援を行っています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	日々のアセスメント以外に、ケアプランの更新時の際にもモニタリングや評価を行っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	ご家族と職員の意見より残存機能の維持を目的に、できる限りご本人の足で歩くことを積極的に行なうといったケアができています。少しでも長く歩くために杖の変更を検討している事例もあります。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個人記録に、入居者の言葉や様子を記録し、どういう思いを抱いているのかをリサーチし、申し送りやカンファにて情報を共有し介護計画の見直しを行っています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	ご本人とご家族の関係性（今までの生活歴等）を考慮しながら、例えばかかりつけ医の受診の支援やご親族との関係などの調整を図っています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	町内会の会員になっており、回覧板や町内会からの情報を得ております。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	月に2回の定期往診を受けていますが、必要な時は今までのかかりつけ医にみて頂いております。また施設看護師より健康状態を聞き家族へ伝えていきます。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	介護職員は日々の申し送りやケアの中で看護師に相談したり個人記録に記入し情報の共有を行いつつ、受診や看護につなげています。適切な情報が伝達できる様取組んでいます。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	介護職員または看護職員は退院時に、医師とご家族様のムンテラに同席させて頂いて、正確な情報を把握する様に努めています。ご家族の意向を聞き取り出来るだけ不安を解消できる様にお手伝いをしています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	契約時に重度化やターミナルの確認を行なっています。また、状態の変化に合わせてその都度確認を行ない、必要に応じて往診医との話し合いも行なっています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	突発的な急変や事故に備え、研修にて指導育成に努めています。またまわりのフロアの協力体制も作っています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	現在はコロナの影響で避難訓練は行えておりませんが、申し送りや資料で職員に伝達したり、定期的に備蓄品の確認もしております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	ご本人の生活歴や性格を考慮して、誇りやプライバシーを損ねないよう心がけ、常に尊敬の念をもって接しています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	ご本人から購入品の希望があった場合は、カタログを見ながら購入したり、自分で選べるように支援しています。また普段の洋服や飲み物もご本人が選べる様声を掛けながら行っています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	ご本人の意向を優先し、動きたいのかのんびりと過ごしたいのか散歩をしたいのかなどお話や訴えをお聞きして支援をしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	ほとんどの方が自分で衣類を選んでいきます。訪問理病美容の利用もあり、おしゃれを楽しむ支援をしています。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	準備や片付けを一緒にして頂いています。また、季節に即した食事を提供し楽しんで頂いています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	ご本人の状態に合わせたご飯の量を盛付けたり、適切な飲水量が確保できる様に声掛け等支援を行なっています。また、食事量が少ない方にはふりかけをかけたりするなど、どうすれば食べてくださるかを看護師や職員で話し合っています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	口腔ケアの介助が必要な方は声掛けや見守り、必要に応じて介助なども行っております。歯科往診にて口腔ケアの指導も受けて対応をさせて頂いています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	排泄意の確認を行なっています。また、ご本人に合わせたトイレ誘導を行なうことで、パッド類の使用を減らせるように支援しています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	随時体操を取り入れたり必要な飲水量の確保、おやつ工夫（ヨーグルトや寒天で作ったゼリーなど）にて排便コントロールの支援を行なっています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	一番風呂が良い方や、決まった曜日が良い方など、ご本人のタイミングを尊重しています。また、ゆず湯や菖蒲湯など入浴を楽しむ取り組みもしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	ご本人が自由に居室やフロアなどで過ごしています。移動介助が必要な方はご本人に聞いてから休息のお声掛けを行っています。夜間安眠して頂けるように支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	看護師が記載した往診記録の確認、または個人記録に添付してある薬剤情報を確認しながら服薬の支援を行なっています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	台所仕事が好きな方には調理や片づけ、洗濯たたみ等を職員等で行っております。日々の生活の生きがいをもって頂ける様支援しております。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	現在はコロナの影響で外出は控えていただいております。ご利用者から外出の要望があった際は、きちんとご説明し納得いただいております。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	金銭管理は主に事務所でっております。必要になった場合、立替制度を取っています。ご希望に応じお金を所持し使える様支援しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	家に帰りたいという訴えがあった時や用がある時には、ご家族と電話にてお話ししていただき安心いただいております。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	玄関や廊下に季節の花を飾り、季節感を感じて頂いております。お庭にも季節の花が植えられています。清潔をベースに安心した生活の提供を心がけています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	1.2階のご入居者様が互いに気が合うところへ行き気分転換を図っています。ご入居者様方々が自由に居室やフロアへの移動を行っています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	家で使っていた家具や食器を居室においてなるべく、自宅に近い感覚で過ごして頂けるよう配慮をしています。自分の塗り絵の作品を壁にきれいに貼られている方もいます。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	ご本人の希望や、それぞれの能力に応じて掃除や食事の後片付けなどをして頂いております。個別性を重視し、その方の力量に合わせた支援を行なっています。		

2020年度

目標達成計画

事業所名 花物語なかはら

作成日：令和 3 年 2 月 5 日

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	1	新しく施設理念を作成しましたが職員に浸透していません。	施設理念を再構築する。	施設理念をわかりやすくするためにシンプルな目標を作成する。職員の意思を汲みこめるよう聞き取りを行う。	6ヶ月
2	13	防災訓練には地域の方の参加はほとんどありません。	地域の方の参加を目指す。	防災訓練を開催するときは地域の方にお知らせを配布し、参加を呼びかける。	6ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月